

桜はおめでたい？



『新版御府内流行名物案内
双六』より「向島の桜もち」
(一英斎芳艶画、1847)
当時は桜の葉を2～3枚使
っていたそうです。

桜を使った食べ物といえば、桜餅。起源は江戸時代まで遡ります。江戸向島にある長命寺の門番・山本新六は、桜の落ち葉掃除に困り、落ち葉の利用法を考えました。そこで落ち葉を塩漬にし、あんこ餅をくんで参拝客に売ったのが始まりとされています。

桜餅とは対照的な印象の「桜褪め」という言葉もあります。江戸時代、桜の花が散り際になると急に色あせていくことをこう呼び、男女の仲が冷めることに結びつけることもあったそうです。桜の季節に婚礼を避ける風習もあったのだとか。桜が「めでたいもの」という印象を持たれるようになったのは江戸時代中期以降。ちなみに、桜の花の塩漬けにお湯を注いで飲む「桜湯」が、現在のように結婚式や結納などのお祝いの席で用いられるようになったのは、江戸時代後期以降といわれています。

人々の桜に対する印象の変化に伴って、慣習も変わっていくのですね。

【参考資料】

- 『和菓子の辞典』（奥山益朗／編 東京堂出 1983）
- 『たべもの起源事典』（岡田哲／編 東京堂出版 2003）
- 『桜2 ものと人間の文化史137-2』（有岡利幸／著 法政大学出版局 2007）他

さくら色に衣を染めて

散りゆく桜を惜しむ気持ちを詠んだ歌が、古今和歌集にあります。

桜色に衣は深く染めて着む

花の散りなむのちのかたみに（紀有朋）

「桜の色に衣を染めて着よう」「花が散ってしまった後の思い出になるように」とうたっています。（『古今集の桜と紅葉』佐田公子／著 笠間書院 2008 より引用）

では、桜色に染めるには、どうしたらよいでしょうか。桜の花びらを煮詰めて染めるのではなく、桜の樹皮や枝を使うんです。

桜の染色で有名なのが、染織家で人間国宝の志村ふくみさん。志村さんの著作によると、どの季節の桜の樹皮を使ってもいいわけではなく、美しい桜色に染めるには、花が咲く前の樹皮でないとはいけません。花を咲かすために一年間「じっと色を貯めていた」桜。その「桜の幹に宿した生命の色をいただく」と志村さんは話しています。（『語りかける花』志村ふくみ／著 人文書院 1992 より引用）

千年の時を経ても、短い桜の花の命を惜しみ、愛する日本人の心は変わりません。

さくら、いまむかし



『千代田の大奥』より「千代田大奥 御花見」
(楊州周延画、明治27年)

日本での桜の歴史は古く、『日本書紀』巻第十二「磐余稚桜宮で即位。諸国に国史を置く」には、履中天皇の酒盃の中に桜の花びらが舞い落ちてきたというエピソードがあります。それから現在に至るまで、桜はさまざまな形で日本文化に関わってきました。数ある花の中でも、桜は少し特別視されているような気がします。

今も昔も日本人に愛される桜について、ご紹介します。

青森県立図書館 参考郷土室

〒030-0184
青森市荒川字藤戸 119-7
電話：017-729-4311
FAX：017-762-1757
<http://www.plib.pref.aomori.lg.jp>

青森県立図書館 参考郷土室

2015



コノハナサクヤヒメから弘前公園まで、日本と桜の歴史

タイトル	著者・編集者	出版社	出版年	ラベルの記号	本の番号
日本一の桜	丸谷馨／著	講談社	2010	479.75 マルヤ*カ	10213277262
桜1 ものと人間の文化史137-1 桜2 ものと人間の文化史137-2	有岡利幸／著	法政大学出版局	2007	627.73 アリオカ*ト(1) 627.73 アリオカ*ト(2)	10213214612 10213214623
日本のサクラが死んでゆく ソメイヨシノの寿命に挑む男たち	平塚晶人／著	新風舎	2005	629.75 ヒラツカ*ア	10215761547
桜信仰と日本人 愛でる心をたどる名所・名木紀行	田中秀明／監修	青春出版社	2003	479.75 サクラシコ	10212860823
櫻よ「花見の作法」から「木のころ」まで	佐野藤右衛門／著 小田豊二／聞き書き	集英社	2001	479.75 サノト	10212624502
桜 その聖と俗	高木きよ子／著	中央公論社	1996	479.75 タキ*キ	10210872348
桜伝奇 日本人の心と桜の老巨木めぐり	牧野和春／著	工作舎	1994	627.7 マキノ*カ	10210718549
語りかける花	志村ふくみ／著	人文書院	1992	914.6 シムラ*フ	10210360602

文学作品で桜を楽しむ

タイトル	著者・編集者	出版社	出版年	ラベルの記号	本の番号
古今集の桜と紅葉	佐田公子／著	笠間書院	2008	911.1351 サタ*キ	10213878856
桜の森の満開の下 絵本	坂口安吾／作 福田庄助／絵	審美社	1990	913.6 サカグチ*ア	10200994733
薄墨の櫻	宇野千代／著	新潮社	1975	913.6 ウノ*チ	10201814426

絵画、写真…花見の余韻を図書資料でも

タイトル	著者・編集者	出版社	出版年	ラベルの記号	本の番号
日本画にみるさくら —横山大観から中島千波まで—	島田康寛／監修	青幻舎	2014	大型721.9 ニホンガ*ニミ	10214567463
SAKURA The Japanese Soul Flower	水野克比古／著 水野秀比古／著	IBCパブリッシング	2014	洋748 Mizuno*K	10214621977
日本の伝統文様事典〈花〉第4巻 桜	小清水卓二／著 西山松之助／著 河原正彦／著 元井能／著	日本図書センター	2011	大型727 ニホンデン(4)	10214551125
桜	蜷川実花／著	河出書房新社	2011	748 ニナガワ*ミ	10214249161
通り抜け その歩みと桜	造幣局泉友会／編	創元社	1996	627.73 ゾウヘイキヨ	10211361121

こちらのwebサイトもおすすめてです

弘前さくらまつり2015 http://www.hirosakipark.jp/sakura/	桜の開花情報を写真付きで随時更新。お出かけの参考になさってください。
桜の開花情報 日本気象協会 tenki.jp http://www.tenki.jp/sakura/	全国の桜の開花情報を掲載。また、tenki.jpでは、「春を報(しら)せる百円桜プロジェクト」と銘打ち、東日本大震災被災地への桜の植樹活動支援を目的とした募金活動を行っています。

※紹介している本は、多くの資料の一部です。お探しの資料が見つからない場合には、職員にお尋ねください。